

# 表紙の“人” Mr.フィギュア

今月の一言

人につくし、胞子しよう。



今月の表紙はお気に入りの一枚である。撮影アングル、ボケ具合も良く、コメントも格言&駄洒落がハマリ、まさに小生の目指すお洒落アフォリズム的作品である。《「aphorism」短くピリッと、人生、社会への警句、金言をちよつと皮肉をこめて言う表現でヒポクラテスの「芸術は長く人生は短し」が起源といわれる》

つくしの漢字は筆に似ているから土筆と書くらしいが、実にいい得て妙。漢字の語源、由来も粋な言葉遊びですね。さて先日若い女性社員との会話に驚いた。小生、表紙の写真を見ながら「最近土筆を食べてないなあ」。すると女性社員が間髪入れず「え、土筆食べれるんですか?」。またもや世代格差を感じたのである。早速ネットで購入できるかなと検索すると、楽天にありました。主に山形、長

野産があり、苦みを味わう穂先が閉じたもの、茎の食感を楽しむ、開いたものの2種あり。小生500g、1800円を購入。多分、調理前の面倒臭い袴取りは自分の仕事になるが、お袋の味のためなら楽しんでできる。家内は「ワンちゃんがおしっこかけてるから」と、食べないので全て自分が食することになります。

子供の頃、尾張一宮のたんぼの畦道を走り、土手で摘んで、母親が卵とじにしてくれたなんともほろ苦い味、同時にその頃の家族の映像が浮かび、なぜかちよつと感傷的なる。そして数日後同じ場所に摘みにいくとスギナになっていてがっかりした思い出もある。そんなスギナはシダ科トクサ類最小植物。胞子茎をつくし、栄養茎をスギナ。スギナの繁殖のため、土筆の先っぽがほころび胞子を撒き

受精する。土筆は胞子をばらまくから、誰かが「スギナのチンチ○」と言っていたのがおかしい。スギナと土筆は根っこが土中で深く繋がっている。根が深いから「地獄草」との別名もあり、何となく複雑な男女の関係を想起するのは小生の考えスギナ?

男女関係といえればこんな悩み相談を聞きます。「一生懸命に彼に尽くしたのに、どうして振られてしまったの?」。解答者は「男は惚れられすぎるとうつつとうしくなり、

Mr.フィギュア 本誌の表紙に登場した一見あやしい、どこか可愛い、中年男性。愛犬チャーチルとはいつとも一緒。その正体は、実在するビジネススマン恒川憲一氏をモデルに作られたフィギュア。月刊正論の表紙とこのコラムで、厳しく優しく、ダジャレをオシャレに織り交ぜた温かいメッセージを、読者のみなさまに届けている。

とはいえ、かまってくれないと文句を言うわがままな動物。時に離れてミステリーな部分を残さないと飽きてしまう。(理解できるが、小生にはもう縁がない?)ので勝手にどうぞ。)

最後に、「尽く尽く奉仕、防止!」それにしても我が広告、マスコミ業界には、そんな奉仕型人間があまり見当たらない気がしますが、楽しいことが最優先のB型社会だからなのでしょうか?

特におおらかで気前のいいO型は、好きな彼のためならつい貢いでしまう傾向にあり、それだけ愛情が深いといえるのですが、気をつけよう。

土筆も過ぎるとスギナになる、身をつくし注意ですね。格言でき



恒川憲一氏 つね

かわけんいち クリ

エイター。株式会社シーエムバー代表取締役社長。大阪芸術大学デザイン科を卒業後、広告代理店勤務を経て独立。15年間、絶えずフィギュアを持ち歩き撮影し、ダジャレを考えている。このコラムの真の執筆者。著書に『フォット、一息』(セルバ出版)。

P・S ウィットなヒトコト募集中! お題の写真に一言付けるだけ。(これが意外と難しい)

「Mr.フィギュアに挑戦!」で検索を。スマホコミックも好評(アプリXOYをDL)。サイトもリニューアル、覗いてね! <http://mr-figure.com>